

両大戦間期スイスのソーシャル・ツーリズム形成をめぐるコンフリクト

森本 慶太（文学研究科西洋史学）

1. 研究概要

本研究では、ソーシャル・ツーリズム団体「スイス旅行公庫協同組合」(Schweizer Reisekasse、以下 Reka) を主な研究対象とし、組織が形成された背景・意義を歴史的に解明することを目的としている。「ソーシャル・ツーリズム」とは、「さまざまな理由で観光に無縁である人々が観光を実現できる条件を整えようとする社会的支援であり、国、地方自治体、各種団体などが観光を楽しむ機会をあらゆる人々に保障しようとする考え方、またそのための活動」を示す言葉であり、第二次世界大戦後の西ヨーロッパ諸国で広く普及した。本研究は、このソーシャル・ツーリズムの歴史的意義を両大戦間期にさかのぼって考察し、それが構想された背景にあった国内的なコンフリクト、ならびに、体制間抗争という国際的な文脈におけるコンフリクトに、歴史学的手法で焦点を当てるものである。

キーワード：スイス ソーシャル・ツーリズム 観光学

2. 調査の概要

調査期間：2010年2月21日～3月15日

調査地：スイス連邦

1) ベルン

Reka 本部訪問：史料調査・Ralph Krebs 氏 (Reka 副部長) との面談

スイス連邦文書館：史料調査

ベルン大学図書館：同時代文献・二次文献の収集

2) バーゼル

スイス経済文書館：史料調査

Beatrice Schumacher 氏 (歴史学者) を訪問・面談

3) ザンクト・ガレン

ザンクト・ガレン大学図書館：文献収集

3. 調査の成果

1) Reka・連邦政府関係文書の入手

- ・設立へ至る過程 (諸外国の影響、国内関連業界の利害)
→スイス社会の統合とソーシャル・ツーリズムとの関係
- ・発足後の経過 (戦時中における戦後の展望)

- 2) 同時代の観光学者による文献の収集
 - ・観光・余暇の普及の必要性を説明
 - 同時代のツーリズムの転換を理論的に跡付ける
 - ・ソーシャル・ツーリズムの構想と観光学との関係
- 3) ヨーロッパ（とくにドイツ語圏）における「観光史」研究の現状把握

4. 今後の展望

- 1) 両大戦間期スイスにおけるツーリズムをめぐるコンフリクトの解明
 - ・19世紀型ツーリズムから20世紀型ツーリズムへの移行
 - ・マス・ツーリズムのあり方をめぐる模索
 - ・商業ツーリズムの挫折（ホテルプラン協同組合）
- 2) ソーシャル・ツーリズムの誕生
 - ・ドイツやフランスと異なる戦後との連続性
 - ・戦後における国際的な広がり
 - ・スイス社会統合のシンボルとしての Reka 再考
- 3) 「観光学」の形成
 - ・観光研究機関の設置（ベルン大学とザンクト・ガレン大学）
 - ・学問的体系化へのスイスの観光学者の寄与

主要参考文献

Rüdiger Hachtmann, *Tourismus-Geschichte*, Göttingen, 2007.

Ralph Krebs, Hans Teuscher, *50 Jahre Reka 1939-1989*, Bern, 1989.

Beatrice Schumacher, „Ferien für alle: Konsumgut oder touristische Sozialpolitik?: Die Ferienentwürfe von Hotelplan Reisekasse Ende der 30er Jahre“, Jakob Tanner et al. (Hg.), *Geschichte der Konsumgesellschaft. Märkte, Kultur und Identität*, Zürich, 1998.

Beatrice Schumacher, *Ferien: Interpretationen und Popularisierung eines Bedürfnisses Schweiz 1890-1950*, Wien, 2002.

ハンス・トイシャー、ラルフ・クレプス（青木真美訳）「スイス旅行公庫（REKA）——社会的政策的な余暇旅行促進のための機関」『運輸と経済』第49巻第6号、1989年6月、67-72頁。